

農家住宅モデル①

農業後継者と地域住民が繋がるアグリコレクティブハウスなど、散居型農村集落における農家住宅の構想づくり【北海道旭川市】

※コレクティブハウスとは、それぞれの住宅は各戸に台所、浴室、トイレを備えて独立しているが、共同の食堂等のコモンスペースを持つ集合住宅

北海道旭川市

事業主体

西神楽農家住宅推進協議会（NPO法人グラウンドワーク西神楽、旭川市、旭川土地改良区等）

取組内容（H29～30）

- 農家住宅ニーズの把握、現在の散居から集居型の農家住宅（戸建やコレクティブハウスなど）のグランドデザインの策定
- 金融機関との連携による資金調達方法の検討
- 国営緊急農地再編整備事業の調査地区での非農用地を活用した農家住宅建設の可能性についても検討

地域の現状（老朽化、田園風景の阻害）

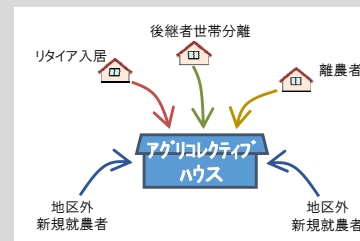


農家住宅のイメージ



地域価値を高めるさまざまな農家住宅構想

- 倉庫や作業などの利便性を考慮
- 眺望や半屋外空間など豊かな農的暮らしを実現
- 核家族に適應した小規模省エネ型住宅



- プライベートな個室に加え、農業後継者と地域住民が繋がるコモンリビングや6次産業化のための作業場も付随したアグリコレクティブハウスも検討

農家住宅モデル②

コテージむら（農地付き農家住宅）へ、新たに若年層の農業後継者を取り込むため、「かっこいい」、「おしゃれ」な農家住宅戦略を構築【岩手県雫石町】

岩手県雫石町

事業主体

コテージむら農家住宅推進協議会（NPO法人しずくいし・いきいき暮らしネットワーク、岩手県、雫石町、岩手県農業公社）

取組内容（H29～30）

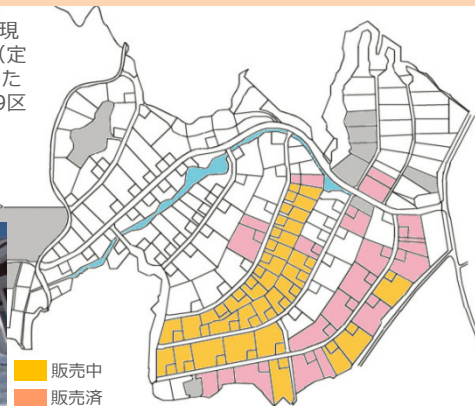
- 若者の田園回帰志向の高まりも踏まえ、地域住民、NPO、農業女子、住宅メーカー、木材関係者等により構成されるワークショップで、新規就農者の移住を促進するための農家住宅戦略を構築
- 首都圏等におけるプロモーション、SNSを活用した情報発信等による移住者の募集



全109区画中、現在20戸が居住（定年退職後移住した人が中心）、29区画販売中



現在の居住者は有機農業で栽培した農産物を直売したり、パンなどに加工して販売



広い土地を活かしてにわとりやひつじを飼ったり、古い蔵を移築する居住者も存在。情報通信インフラも光ファイバー化済

農地付き宅地の標準的な区画

農地（畑） 約15～38アール （約450～1,150坪）
宅地 約5アール （約150坪）

農家住宅モデル③

農家住宅構想づくりを契機とした「かわばアルカディア（田園理想郷）」の実現【群馬県川場村】

群馬県川場村

事業主体

川場村田園理想郷保全協議会（川場村、地域住民等）及び連携する団体として群馬県、東京農業大学

取組内容（H29～30）

- 関係集落住民の意向把握（ワークショップの開催等）
- 空き家の活用や農家住宅の整備に関する基本構想の検討
- ほ場整備の非農用地生み出しにより、防災拠点施設や教育文化施設等の公共施設の集約化を図るとともに、農家住宅の整備構想も検討



- （東京農業大学との連携）
- 空き家の農家住宅への活用モデル構想の検討
 - 鳥獣害に強い作物の栽培実証
 - 耕作放棄地の発生防止対策



村内に点在する空き家

- （村機能の集約化とほ場整備による農業の高付加価値化）
- ほ場整備の非農用地生み出しによる農家住宅の整備構想も検討
 - 観光リンゴ園経営やこんにゃく芋加工による6次産業化
 - 道の駅「川場田園プラザ」との連携



道の駅「川場田園プラザ」は年間来訪者180万人

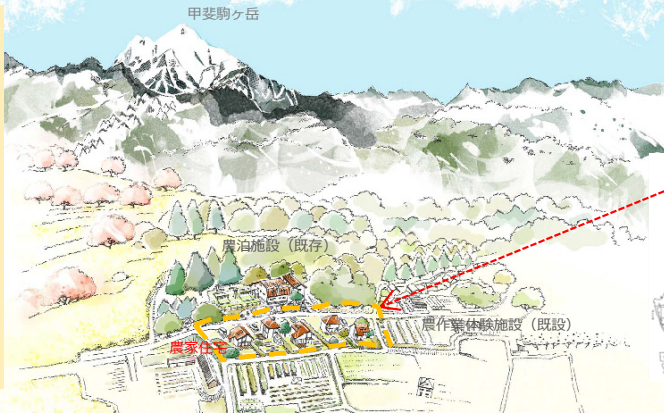
農家住宅モデル④ – 世界に誇る「水の山」と美しい景観に囲まれた農家住宅 – 【山梨県北杜市】



事業主体
北杜市農業企業コンソーシアム(市内で農業参入している企業15社、山梨県、北杜市等)

取組内容 (H29~30)

- 農家住宅のデザイン、地域景観の配慮やまちづくり協定(管理規定)を策定するためのワークショップ開催
- 東京での田舎暮らしのプロモーション活動等による移住者募集
- 農家レストラン・農産物加工場の整備構想、道の駅「こぶちざわ」との販売・観光の連携の検討



畑地帯総合整備事業【鳥原平地区、H10~18】で担い手によるトマト等の高収益作物の生産を拡大するとともに非農用地を創出。
農家住宅整備は北杜市子育て世代マイホーム補助金(新築150万円/戸や利子補給)の活用を検討。

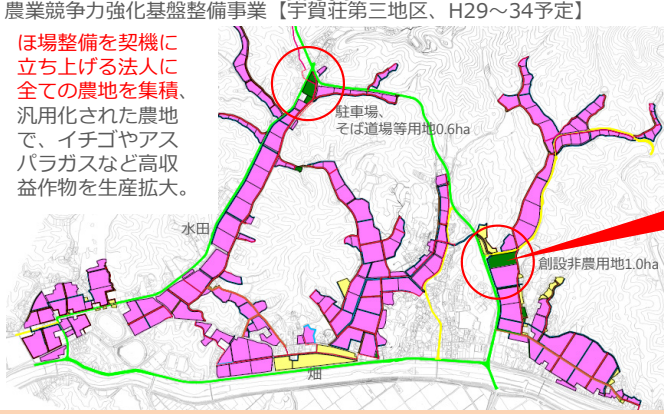
農家住宅モデル⑤ – 「自然・歴史・交流・観光」を核とした次世代に繋がる郷づくり – 【島根県安来市】



事業主体
宇賀荘ひがし地区定住促進協議会(ほ場整備の推進協議会、安来市等)

取組内容 (H29~30)

- 農家住宅のデザイン、地域景観配慮構想、管理規程の策定などのためのワークショップ開催
- 本協議会と新規就農者を加えたワーキンググループによる農産物の販売・加工に向けた取組検討
- 関東・関西方面での田舎暮らしのPR活動等による移住者募集



農業競争力強化基盤整備事業【宇賀荘第三地区、H29~34予定】
ほ場整備を契機に立ち上げる法人に全ての農地を集積、汎用化された農地で、イチゴやアスパラガス等高収益作物を生産拡大。

創出した非農用地で農家レストランや直売所とともに、U・Iターン就農者のための農家住宅を整備。
農家住宅整備は過疎債を活用した市単独事業を適用予定。

農家住宅モデル⑥ 多世代の交流が盛んとなる「四万十モデル」の農家住宅の整備 – 次世代に引き継ぐ豊かな農家の暮らしの実現に向けて – 【高知県四万十町】



事業主体
四万十町就農・定住促進協議会(四万十町、高知県、地域住民等)

取組内容 (H29~30)

- 空き家と農地をセットとした「まるごと再生農家住宅」、若者のシェアする文化を活かした農家住宅・農業機械・農地等の「シェア農家住宅」、多世代住宅と生活関連施設が密接に連携した「コンパクト・ビレッジ」の3つのモデル構想を策定し、四万十モデルを町内へ拡大。
- さらに、ほ場整備事業での非農用地創出による住宅用地生み出しも検討。

